

農産 F A X 情報 第 9 号

令和 6 年 9 月 1 5 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) は種適期

○「きたほなみ」は、越冬前までに主茎葉数 5 葉、茎数 370～900 本/㎡程度が適正とされ、900 本を超えると倒伏の危険が高まります。表 1 の適期には種作業ができるよう準備を進めましょう。

(2) は種量

○は種量は、は種時期に合わせて調整しましょう（表 1）。幕別町忠類で使用予定の種子生産地および千粒重は以下のとおりです。

中札内産 37.9 g 本別町産 42.2 g

○土壌水分が高いほ場では、出芽率低下を考慮して表 1 から 1 割程度増量してください。

○適正なは種深度は 2～3 cm 程度です。深播きは、出芽率の低下や二段根の発生、雪腐病等の発生要因となります。

(3) 施 肥

○基肥窒素量は肥沃度が低い場合や、有機物のすき込みによる窒素飢餓が懸念される場合は 4 kg/10 a 程度を目安とし、前作やたい肥投入に応じて施肥量を減じてください。リン酸、カリ、苦土については土壌診断の結果に基づき施肥量を調節しましょう。

(4) 除草剤の使用

○イネ科雑草対策には秋期の土壌処理が効果的です。小麦 3 葉期までに、土壌処理作業を行いましょう。

表 1 は種量の目安 （大樹アメダス平年値使用）

区 分	適期播き	やや遅播き	遅播き
は種日	9月21日	9月25日	9月28日
は種粒数(粒/㎡)	166粒/㎡	213粒/㎡	273粒/㎡
中札内産 は種量(kg/10a)	6.3kg/10a	8.1kg/10a	10.3kg/10a
本別町産 は種量(kg/10a)	7.0 kg/10a	9.0kg/10a	11.5kg/10a

※は種量は、越冬前茎数 800 本/㎡、出芽率 90%で算出

2 てんさい

(1) 褐斑病の防除

○発生拡大に引き続き注意が必要です。ほ場を確認し、防除を行う場合には薬剤の使用時期等に注意し、適正に防除しましょう。

(2) シロオビノメイガの防除

○シロオビノメイガによる被害が確認されております。被害の拡大に注意が必要です。防除を行う場合は薬剤の使用時期に注意しましょう（表2）。

表2 薬剤使用例（シロオビノメイガ）

薬剤名	希釈倍率	使用回数	使用時期	系統
ディアナSC	5000倍	2回	収穫前日まで	スピノシン
マッチ乳剤	3000倍	2回	収穫14日前まで	ベンゾイル尿素

3 豆 類

(1) 収穫作業

○本年の成熟期はほ場によりバラつきがあるため、倒伏や子実水分、葉落ち程度を確認し、収穫機を調整して下さい。

○小豆や菜豆のピックアップ及びコンバイン収穫は、下表を参考に実施してください。

表3 機械収穫の要点

小 豆	手 亡
熟莢率100%の日から2週間以内 (子実水分16～18%が目安)	熟莢率100%の日から1週間以降

収穫が近い作物への**ドリフトに注意！**

トラクタや作業機には**早めのライト点灯！**

作業中の収穫機点検は**必ずエンジンを止めて！**